

病害虫情報(第10号)1・2月予報

令和5年12月27日
神奈川県農業技術センター

病害虫防除部 TEL 0463 - 58 - 0333
ホームページ <http://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7/cnt/f450002/>

【内容】

- I 1・2月の主な病害虫の発生予報、防除要否、使用する薬剤例 …………… 1
【水稲、カンキツ、促成トマト、促成・半促成キュウリ、促成イチゴ、早春キャベツ、ダイコン】
- II 1・2月の気象予報と病害虫発生予報の根拠 …………… 6

- 農薬使用の際は、必ずラベルの記載事項を確認し、遵守すべき基準を守り、飛散防止に努めましょう。
- 掲載農薬は一般的な場合を想定し、防除効果を優先して選定しています。

※ 農薬に関する情報は、令和5年12月20日までの農薬登録情報に基づいて記載しています。

I 1・2月の主な病害虫の発生予報、防除要否、使用する薬剤例

【水稲】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
縞葉枯病	—	—	◆ 媒介虫であるヒメビウンカの越冬場所を減らす目的で次の対策を実施する。 ①「ひこばえ」や水田内雑草をすき込む。 ②冬期～春期に畦畔や休耕田の除草を徹底する。
スクミリンゴガイ	—	—	◆ スクミリンゴガイの越冬率を下げる目的で次の対策を実施する。 ①冬期に水田を複数回耕起すると殺菌効果が高い。貝を破碎するため、耕うんは走行速度を遅くし、ロータリーの回転数を高くして浅く細かく耕す。 ②用排水路で生存している貝の対策として泥上げを行う。地区全体で実施すると効果が高い。 ③休耕田も発生源になるので、できるだけ①の対策を実施する。 ④未発生水田への貝の持ち込みを防止するため、トラクターなどに付着した泥は使用後に洗浄する。

【カンキツ】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
ミカンハダニ	やや少	○	マシン油乳剤(95%, 97%, 98%) 等
カイガラムシ類	—	○	◆ マシン油乳剤は商品によって使用基準が異なるので、ラベルの記載に従うこと。 ◆ 1月中旬までに防除する。ただし、この時期に防除できなかった園では、ハダニを対象に収穫後の春期に防除する。 ◆ カイガラムシ類は、冬期の防除が効果的である。

【防除要否】 ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
【使用時期】 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報

(令和5年度・第10号・1・2月) …………… 神奈川県農業技術センター

【促成トマト】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント												
灰色かび病	—	○	(予) ボトキラー水和剤 [発病前～発病初期, -:ダクト内投入] 灰色かび病:10～15g/10a/日、うどんこ病:15g/10a/日 (予) フルピカフロアブル [前日,4回] 灰色かび病:2,000～3,000倍 (予・治) ベルクートフロアブル [前日,3回] 2,000～4,000倍 (予・治) ポリオキシシンAL水和剤 [前日,3回] 灰色かび病:1,000倍 (予・治) パンチョTF顆粒水和剤 [前日,2回] うどんこ病:2,000倍 (治) ベミデタッチ [前日, -] うどんこ病:500倍 等												
うどんこ病															
コナジラミ類 タバココナジラミ	—	○	スピノエース顆粒水和剤 [前日,2回] アザミウマ類:5,000倍 マッチ乳剤 [前日,4回] アザミウマ類:1,000～2,000倍 コナジラミ類:2,000倍 チェス顆粒水和剤 [前日,3回] コナジラミ類、アブラムシ類:5,000倍 コルト顆粒水和剤 [前日,3回] コナジラミ類、アブラムシ類:4,000倍 サンクリスタル乳剤 [前日, -] コナジラミ類、アブラムシ類:300倍 ベミデタッチ [前日, -] コナジラミ類:500倍 ☞ ベミデタッチは成虫飛来前や発生初期に使用し、7日間隔で複数回散布する。												
アブラムシ類	—	○													
アザミウマ類	—	○													
			◆ 近年、4月以降にうどんこ病の発生が目立つ。ほ場内の菌密度を低く抑えるために冬期から防除する。 ◆ ウイルス病の感染を防ぐためにも害虫の防除を徹底する。												
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>発生するウイルス病</th> <th>媒介する害虫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CMV等(モザイク病)</td> <td>アブラムシ類</td> </tr> <tr> <td>TYLCV(トマト黄化葉巻病)</td> <td>コナジラミ類</td> </tr> <tr> <td>ToCV(トマト黄化病)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>TSWV(トマト黄化えそ病)</td> <td>アザミウマ類</td> </tr> <tr> <td>CSNV(トマト茎えそ病)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	発生するウイルス病	媒介する害虫	CMV等(モザイク病)	アブラムシ類	TYLCV(トマト黄化葉巻病)	コナジラミ類	ToCV(トマト黄化病)		TSWV(トマト黄化えそ病)	アザミウマ類	CSNV(トマト茎えそ病)	
発生するウイルス病	媒介する害虫														
CMV等(モザイク病)	アブラムシ類														
TYLCV(トマト黄化葉巻病)	コナジラミ類														
ToCV(トマト黄化病)															
TSWV(トマト黄化えそ病)	アザミウマ類														
CSNV(トマト茎えそ病)															
			◆ 施設開口部(出入口、天窓等)には、目合い0.4mm以下の防虫ネットを展張し、害虫の侵入防止に努める。なお、赤色防虫ネット(クロスレッド)はより高い防虫効果が期待できる。 ◆ 施設内外の雑草は、害虫の発生・増殖源になるため、除草を徹底する。 ◆ 黄色・青色粘着板を設置し、害虫の発生消長を把握する。 ◆ ウイルス病発病株は抜き取り、施設外に持ち出し、土中に埋めるなど適切に処分する。												

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
 [使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

マルハナバチへの影響

- ▶ 農薬散布の際は、巣箱を施設から出し、巣箱を再導入する前には、換気を十分に行い、薬液が乾いていることを確認すること。
- ▶ 影響のある剤:ポリオキシシンAL水和剤(1日)、コルト顆粒水和剤(セイヨウオオマルハナバチ3日後、クロマルハナバチ7日後)、スピノエース顆粒水和剤(5,000倍散布:3日後、2,500倍:8日後)

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

病害虫情報

(令和5年度・第10号・1・2月) …………… 神奈川県農業技術センター

【促成・半促成キュウリ】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント									
べと病	—	○	(予) ダコニール1000 [前日,12回] 1,000倍 (予) ジマンダイセン水和剤又はペンコゼブ水和剤 [前日,3回] 600～800倍 (予・治) ランマンフロアブル [前日,4回] 1,000～2,000倍 ◆ 育苗期から薬剤散布を行うと効果が高い。									
うどんこ病	—	○	(予) ダコニール1000 [前日,12回] 1,000倍 (予) インプレッションクリア [発病前～発病初期, —] 1,000～2,000倍 (予・治) ファンベル顆粒水和剤 [前日,3回] 1,000倍 ☞ ファンベル顆粒水和剤は混合剤。総使用回数に注意す ◆ 育苗期から薬剤散布を行うと効果が高い。									
アブラムシ類	—	○	【育苗期:粒剤施用】 ベストガード粒剤 [育苗期,1回:株元処理] アブラムシ類、コナジラミ類:1g/株 【育苗期:灌注】 モベントフロアブル [育苗期後半～定植当日,1回:株元灌注] 500倍 アブラムシ類、コナジラミ類:25～50ml/株 アザミウマ類:50ml/株 ベリマークSC [育苗期後半～定植当日,1回:灌注] アブラムシ類:原液25mlを2～20Lに希釈/400株 アザミウマ類、コナジラミ類:原液25mlを10～20Lに希釈/400株 【定植時:粒剤施用】 アドマイヤー1粒剤 [定植時,1回] アブラムシ類、アザミウマ類:1～2g/株(植穴又は株元土壌混和) コナジラミ類:2g/株(植穴土壌混和) 【育苗期～定植後:散布】 ダントツ水溶剤 [前日,3回] アブラムシ類、コナジラミ類、ミナミキイロアザミウマ: 2,000～4,000倍 アファーム乳剤 [前日,2回] アザミウマ類、コナジラミ類:2,000倍									
コナジラミ類	—	○										
アザミウマ類	—	○										
			◆ ウイルス病の感染を防ぐためにも害虫の防除を徹底する。 <table border="1" style="margin: 10px auto;"> <thead> <tr> <th>発生するウイルス病</th> <th>媒介する害虫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CMV等(モザイク病)</td> <td>アブラムシ類</td> </tr> <tr> <td>CCYV(退緑黄化病)</td> <td rowspan="2">コナジラミ類</td> </tr> <tr> <td>BPYV(キュウリ黄化病)</td> </tr> <tr> <td>MYSV、WSMoV (キュウリ黄化えそ病)</td> <td>アザミウマ類</td> </tr> </tbody> </table> ◆ 前作の抑制キュウリでは、タバココナジラミやミナミキイロアザミウマの寄生が一部で見られたため、生育初期からの防除を徹底する。 ◆ 施設内外の除草を徹底するとともに、栽培に関係のない鉢物等を施設内に持ち込まない。 ◆ 害虫の発生確認や防除のため黄色粘着板や粘着テープの吊下げも効果的である。なお、アザミウマ類には青色粘着板を使用する。	発生するウイルス病	媒介する害虫	CMV等(モザイク病)	アブラムシ類	CCYV(退緑黄化病)	コナジラミ類	BPYV(キュウリ黄化病)	MYSV、WSMoV (キュウリ黄化えそ病)	アザミウマ類
発生するウイルス病	媒介する害虫											
CMV等(モザイク病)	アブラムシ類											
CCYV(退緑黄化病)	コナジラミ類											
BPYV(キュウリ黄化病)												
MYSV、WSMoV (キュウリ黄化えそ病)	アザミウマ類											

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

病害虫情報 (令和5年度・第10号・1・2月) …………… 神奈川県農業技術センター

【促成イチゴ】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
灰色かび病	並	○	(予) ボトキラー水和剤 [発病前～発病初期, -:ダクト内投入] 灰色かび病:10～15g/10a/日、うどんこ病:15g/10a/日
うどんこ病	やや少	○	(予) インプレッションクリア [発病前～発病初期, -] 1,000～2,000倍 (予) フルピカフロアブル [前日, 3回] 2,000～3,000倍 (予・治) ロブラール水和剤 [前日, 4回] 灰色かび病:1,500倍 (予・治) アフェットフロアブル [前日, 3回] 2,000倍 (治) カリグリーン [前日, -] 灰色かび病:800倍、うどんこ病:800～1,000倍 (治) エコピタ液剤 [前日, -] うどんこ病:100倍 (治) アカリタッチ乳剤 [前日, -] うどんこ病:2,000倍
アブラムシ類	やや多	○	ウララDF [前日, 2回] アブラムシ類:2,000～4,000倍、コナジラミ類:2,000倍
コナジラミ類	並	○	ボタニガード水和剤 [発生初期, -] 1,000倍 マッチ乳剤 [前日, 4回] アザミウマ類:1,000～2,000倍 粘着くん液剤 [前日, -] アブラムシ類、コナジラミ類:100倍
オンシツ コナジラミ		○	エコピタ液剤 [前日, -] アブラムシ類:100倍 コナジラミ類:100～200倍
タバコ コナジラミ	並	○	
アザミウマ類	やや多	○	
ハダニ類	多	○	ダニコングフロアブル [前日, 1回] 3,000倍 粘着くん液剤 [前日, -] 100倍 エコピタ液剤 [前日, -] 100倍 アカリタッチ乳剤 [前日, -] 1,000～3,000倍
			◆ ハダニ類に関する注意報を令和5年11月30日に発表している。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫* 日前まで」を「* 日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

ミツバチへの影響

- ▶ 農薬散布の際は、巣箱を施設から出し、巣箱を再導入する前には、換気を十分に行い、薬液が乾いていることを確認する。
- ▶ 影響のある剤:ロブラール水和剤(1日)、エコピタ液剤(1日)、ボタニガード水和剤(1日)、粘着くん液剤(1日)、ダニコングフロアブル(1日)

病害虫情報

(令和5年度・第10号・1・2月) …………… 神奈川県農業技術センター

▼三浦半島地区野菜▼

【早春キャベツ】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
黒腐病	並	○	(予・治) カセット水和剤 [7日,3回] 1,000倍 ☞ カセットは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) バリダシン液剤5 [7日,5回] 800倍 等
菌核病	並	○	(予・治) ロブラール水和剤 [7日,4回] 菌核病:1,000倍 (予・治) ゲッター水和剤 [7日,2回] 菌核病:1,500倍 ☞ ゲッターは混合剤。総使用回数に注意する。
灰色かび病	並	○	(予・治) ファンタジスタ顆粒水和剤 [3日,3回] 2,000~3,000倍 等 ◆ 菌核病は、結球後の防除効果は期待できない。春キャベツへの感染を防ぐためにも、菌核が形成される前に除去しほ場で処分する。
アブラムシ類	多	○	アルバリン 又は スタークル顆粒水溶剤 [3日,2回] 2,000~3,000倍 ウララDF [前日,2回] 2,000~3,000倍 等
コナガ	やや少	○	アフーム乳剤 [前日,3回] 1,000~2,000倍 エスマルクDF [発生初期(ただし前日),-] 1,000~2,000倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

【ダイコン】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
黒斑細菌病	並	○	(予) Zボルドー [-,-] 500倍 (予) ヨネポン水和剤 [7日,4回] 500倍 等 ◆ Zボルドーで薬害が懸念される場合は、クレフノン(100~200倍)を加用する。
アブラムシ類	多	○	アルバリン 又は スタークル顆粒水溶剤 [7日,2回] 2,000~3,000倍 ウララDF [前日,2回] 2,000倍 等
コナガ	並	○	アフーム乳剤 [7日,3回] 1,000~2,000倍 エスマルクDF [発生初期(ただし前日),-] 1,000~2,000倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報

(令和5年度・第10号・1・2月)

…… 神奈川県農業技術センター

Ⅱ 1・2月の気象予報と病害虫発生予報の根拠

(1) 1・2月の気象予報(気象庁12月20日発表3か月予報)

〈天 気〉

1月 平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

2月 平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

〈要素別予報〉

		低い(少ない)	平年並	高い(多い)
1月	気 温	20%	30%	50%
	降 水 量	20%	40%	40%
2月	気 温	20%	30%	50%
	降 水 量	20%	40%	40%

(2) 1・2月の病害虫発生予報の根拠

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
カンキツ	ミカンハダニ	-	やや少	1) 県予察ほ(根府川)では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 10月の巡回調査では、発生が平年よりもやや少ない。(－) 3) 1月、2月ともに気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)
促成イチゴ	灰色かび病	少	並	1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年並。(±) 2) 1月、2月ともに気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(±)
	うどんこ病	少	やや少	1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 1月、2月ともに気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(±)
	アブラムシ類	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(平塚)の黄色水盤への飛来は、平年並。(±) 3) 1月、2月ともに気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)
	オンシツコナジラミ タバココナジラミ	少 少	並 並	1) 巡回調査では、オンシツコナジラミの寄生は見られず発生が平年より少なく(－)、タバココナジラミの寄生は見られず発生が平年よりやや少ない(－)。 2) 1月、2月ともに気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)
	アザミウマ類	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 1月、2月ともに気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)
	ハダニ類	少	多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(＋) 2) 1月、2月ともに気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)

※「発生量」…………… 程度: 甚>多>中>少>無 平年比: 多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」…………… (＋): 多発要因 (－): 少発要因

病害虫情報

(令和5年度・第10号・1・2月) …… 神奈川県農業技術センター

三浦半島地区野菜

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
早春 キャベツ	黒腐病	少	並	1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 1月、2月ともに気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(±)
	菌核病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 1月、2月ともに気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(±)
	灰色かび病	少	並	1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年並。(±) 2) 1月、2月ともに気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(±)
	アブラムシ類	少	多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(＋) 2) 県予察ほ(三浦)の黄色水盤への飛来数は、平年よりやや多い。(＋) 3) 1月、2月ともに気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)
	コナガ	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない(－)。 2) 三浦のフェロモントラップへの誘殺数は、平年並。(±) 3) 県予察ほ(三浦)のフェロモントラップへの誘殺数は、平年よりやや少ない。(－) 4) 1月、2月ともに気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)
冬ダイコン	黒斑細菌病	少	並	1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 1月、2月ともに気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(±)
	ナモグリバエ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(三浦)の黄色粘着板への成虫誘殺数は、平年より多い。(＋) 3) 1月、2月ともに気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)
	アブラムシ類	少	多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(＋) 2) 県予察ほ(三浦)の黄色水盤への飛来数は、平年よりやや多い。(＋) 3) 1月、2月ともに気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)
	コナガ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 三浦のフェロモントラップへの誘殺数は、平年並。(±) 3) 県予察ほ(三浦)のフェロモントラップへの誘殺数は、平年よりやや少ない。(－) 4) 1月、2月ともに気温は平年より高く、降水量は平年並か多い予報。(＋)

※「発生量」…………… 程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」…………… (＋):多発要因 (－):少発要因

(別表)

耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。

★トマト★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ファンタジスタ)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ、ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフエット、カンタス、ネクスター、パレード20)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- DMI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(トリフミン)の場合:1作2回
 - DMI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(テーク、パンチョ)の場合:1作3回

★キュウリ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ファンタジスタ)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ、ファンベル、ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフエット、カンタス)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(フェスティバル水和剤等)の場合:1作1回
 - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(プロポーズ、ベトファイター)の場合:1作2回

★イチゴ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ストロベリー)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ、ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフエット、カンタス)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- DMI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(スコア、トリフミン、ラリー)の場合:1作1回
 - DMI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(パンチョ)の場合:1作2回
 - 単剤と混用もしくは混合剤を組み合わせる場合:1作に単剤1回+混用または混合剤1回